

平成28年度自己評価シート(中間評価)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高坂 学	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	------	-----	----

学校経営目標					
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等	
1 学びの変革を推進し、生徒の多様な実態に対応しながら、基礎的・基本的な知識や技能を育成するとともに、生徒が主体的に活動し、思考力・判断力・表現力を高めることができる。					
生徒が見通しを持って主体的に学習しようとする意欲や態度を育てる授業を行う。	(1) 授業のユニバーサルデザイン化を図り、達成感、充実感の味わえる教材や授業づくりを行う。 (2) 構造化を図り、学習環境を整備する。 (3) 特別支援教育支援員、教科アシスタントとの連携、支援のあり方について工夫する。 (4) 校内及び公開授業研究会を実施する。 (5) 振り返りシートによる授業評価を実施し、成果や課題を共有する。	B	○振り返りシートによる1学期末時点での授業満足度は75%で、目標値を越えている。 ○教育的な支援の観点に立った授業については、各教科において教材作成や試験問題等の工夫・改善が行われた。 ○非常勤講師や支援教員、教科アシスタントを含め、6月に校内授業研究会を実施した。 ●授業評価について、数値的なものだけでなく、具体的な取組にもとづいた成果や課題についての共有化を図るための工夫が必要である。	教務部	
体験学習を通して、他者と協働的に取り組む態度を育てるとともに、自己理解を深めさせる。	(1) 体験学習の目標や意義を生徒に明確に伝える。 (2) 協働的な活動に取り組む中で、ソーシャルスキル、コミュニケーションスキル等を育てる。 (3) 体験文としてまとめ、振り返りを行う。	C	●年度当初に計画していた米づくり体験学習(田植え)が中止になった。 ○自然体験学習として、大豆づくりを計画し、継続実施中である。	教務部	
個別の合理的配慮を考慮し、生徒の共通理解に努め、組織的・統一的に支援の充実を図る。	(1) 家庭・関係機関との連携を深め、生徒理解に努める。 (2) 授業におけるナチュラルサポート(基礎的環境整備)や言語活動における思考のツールを組織的に行う。	B	○教育的支援が必要な生徒の中で89%の生徒については、保護者・関係機関と積極的に連携を取り、担任や必要に応じてケース会議で情報を共有している。 ○教育的な支援・合理的配慮の深化のために教職員研修会を実施し、95%の高評価を得た。 ○授業・補充授業・試験においても、各教科ナチュラルサポートや思考のツールに視点をおいて模索している。	特別支援	

【評価結果の分析】

- 授業満足度は目標値を越え、昨年度よりも若干上がっている。教育的な支援の観点に立った授業について、数年来継続して取り組み、各教科における教材作成や授業展開、試験問題、発問や言葉がけ等の工夫・改善の積み重ねが一定の効果となって表れているのではないかとと思われる。また、支援や配慮を要する生徒が多いうち、特別支援教育支援員や教科アシスタントとの連携による授業の効果は大きく、他の生徒も含めた全体に対する効果も大きい。
- 校内授業研究会では、非常勤講師を含めた全教職員による参加体制をとることができた。視覚的な支援や、見通しを持たせる「やることリスト」の提示、具体物を使って試行錯誤しながら考えていく展開等の工夫が見られた。「生徒の出すさまざまな発想や意見をどのように拾いあげ、つなげ共有させていくかが重要である」等の意見が出され、議論が深められた。
- 教育的支援が必要な生徒の中で 89%の生徒については、保護者・関係機関と積極的に連携を取り、担任や必要に応じてケース会議で情報を共有している。
- 教育的な支援・合理的配慮の深化に向けた生徒理解のための教職員研修会を実施し、参加者の 95%から高評価を得た。
- 授業・補充授業・試験においても、各教科でナチュラルサポートや思考のツールに視点を置いて模索している。

【今後の改善方策】

- 授業満足度については一定の評価が見られるが、個の生徒に視点をあてたとき、どのような支援の観点で取り組んできたか、また、生徒の主体的な学習につながっているか、達成感・充実感を得られるものになっているかという視点を持つておく必要がある。各教科での取り組みについて、評価・分析する観点や方法を研究していくこと、また、効果的な面や課題等について意見交換できる場を設定し、課題の共有化を図っていく。
- 米づくり体験学習にかわる自然体験学習として、大豆づくりを計画した。新たな体験学習として、体験活動とその振り返りにより、自分を客観的・多面的に見つめ直す作業を積み重ねていく。
- 生徒の進路目標の実現に向けて、個別の指導計画や個別の支援計画・アセスメントを作成し、より効果のある関係機関との連携や充実したケース会議を開催する。
- 教育的な支援が充実した学校体制を構築するため、合理的配慮の具体を特別支援教育コーディネーターが発信し、様々な成功例、失敗例を全体で協議しながら、より良いものを模索していく。

2 キャリア教育を充実させ、一人一人の社会的・職業的な自立に向けて、社会人として必要な能力・技能や態度を育てる。

<p>自己理解・他者理解を深め、自己肯定感の高揚を図る。</p>	<p>(1) 集団における学習を通して、様々な物の見方や考え方に触れ、ありのままの自分を受け入れ(自己受容)、自己肯定感を高める取り組みを行う。 (2) 自分の考えをまとめ、自分の言葉で工夫して表現しようとする主体的な態度・意欲・積極性を身に付けさせる。</p>	<p>B</p>	<p>○合理的配慮の観点に基づいた学校独自の「学校生活改善調査」への記入において 84%の生徒が自分の全体像を把握できている。 ○上記資料を基にアセスメントを作成し、公的社会福祉制度を利用でき、進路につながっている。</p>	<p>進路指導</p>
<p>社会的・職業的な自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。</p>	<p>(1) 家庭訪問・地域の企業訪問・職業安定所・就労支援関係事業所・生徒の職場との連携を深める。 (2) 社会参加を基盤として、自らの人生と将来を展望し、社会的・職業的な自律を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。</p>	<p>B</p>	<p>○ジョブシャドウイングからインターンシップへの取り組みにより、96%の生徒が充実感を得ている。 ○新たな企業開拓により高卒新規採用に結びついた。 ○個々の生徒に合わせた関係機関との連携を密にすることにより、合理的配慮による進路実現に向け取り組んでいる。</p>	<p>進路指導</p>

【評価結果の分析】

- 今年度から施行された「障害者差別解消法」に基づき、生徒一人一人の合理的配慮を考えるうえで、「困難性がおきないための支援」をするために作成した「学校生活改善調査」の記入については、84%の生徒が自分を見つめなおす作業が可能になってきている。
- キャリア教育において、ジョブシャドウイングからインターンシップの一連の系統的な取り組みにより、96%の生徒が充実感や達成感を感じ、次なる行動に向けての意欲につながっている。

【今後の改善方策】

- 「キャリア教育ガイダンス」「キャリア講演会」「生活体験文の記録」が、学年状況や個人状況を勘案し教育的な支援を行うことによって、自己肯定感を高めるものになるようにする。
- 担任が養護教諭・特別支援教育支援員・教科アシスタント・市費非常勤講師と連携を取り、生徒個々の状況を把握し進路目標を実現していくために保護者・関係機関との連携し、『自立』とは『社会参加』とはどういう事か柔軟な発想をもつ。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
3 危機管理を徹底し、生徒に自己肯定感を持たせるとともに、自己教育力、豊かな人間性を育て、安心して学べる。				
<p>集団や社会の一員としての自己実現を達成するために、指導方針を明確にすると共に、ルールを明示し、生徒一人一人への理解と支援のための取組を講ずる。</p>	<p>(1) ルール・マナーを常に掲示し、全教職員が同一歩調で指導する体制を構築する。 (2) 校内巡回(授業開始10分間の巡視等)や登下校時の校外巡回等継続的に実施する。 (3) 日常的な教育的配慮による声かけを行う。 (4) 生徒全員の課題を全教職員で共有し、協力連携して指導に当たる体制を確立する。</p>	B	<p>○「生徒指導にかかる規程」を全教職員で共通理解し、同一歩調で指導した結果、8月末時点での問題行動数(実人数)が昨年度と比べて大きく減少している。 ○8月末時点で休学者が昨年度より1名増加しているが、全生徒数に対する長欠者(30日以上欠席者)の割合は大きく減少している。 ●校内外巡回は組織的・計画的にできていない。</p>	生徒指導
<p>生徒会活動や地域貢献活動等を通して、仲間と共にパフォーマンスを高め合おうとする態度を育て、社会人としてのスキルアップを図る。</p>	<p>生徒会の伝統を継承するだけでなく生徒会活動への新しいアイデアや発想の導入を奨励し、その活性化を図ると共に連帯意識を高める。 (1) 生徒が主体的・自発的に各種生徒会行事の企画・運営等を行うことを通して、主体性やリーダーシップを養わせる。 (2) 生徒会を中心とした地域貢献活動に取り組みせ、社会人としての責任を認識させる。</p>	B	<p>○生徒会執行部を中心に主体的・自発的に各行事の企画・運営等に取り組んだ結果、1学期の生徒会行事の参加率が昨年度とほぼ同じ数値であった。 ○地域貢献活動は、11月に実施予定である。また、今年度は、新たに灯りまつり(10/8)のボランティアへの参加を計画した。</p>	生徒指導
<p>自他の命や人権を尊重するとともに、学校安全体制の整備を推進する。</p>	<p>生徒一人一人の特性を認め合い、自己肯定感を得られる授業作り、集団作り、学校作りを学校全体で行っていく。 (1) いじめ防止委員会を中心とした学校安全体制を機能化させる。 (2) 各教科・HR活動等で、人権教育を推進していく。</p>	B	<p>○7月末に第1回学校生活改善アンケートを生徒に実施するとともに、夏休み中の保護者懇談において保護者にもアンケートの回答を依頼した。</p>	生徒指導部(保健・健康指導)

【評価結果の分析】

- 9月末現在、昨年度と比べて問題行動が減った。また、8月末現在における長欠生徒は、昨年度と比べて減少している。キャリア教育や特別支援教育を積み重ね、生徒指導に関しても全教職員の共通理解の下、生徒一人一人の課題を共有し、全教職員で連携を密にしながら取組を推進してきたことによって良好な状況となっていると考える。
- 1学期の生徒会行事における参加率は昨年度とほぼ同じ参加率である。生徒総会の参加率が81.5%で昨年度と比べて7.1%増加しているのに対し、他の行事の参加率は減少している。
- 第1回目の「学校生活改善アンケート」生徒集約では、「学校に行くのは楽しいですか」の質問に、「楽しい」が23.4%、「まあまあ楽しい」が44.2%の結果であった。約68%の生徒が肯定的に考えている。また、保護者集約では、「学校に子どもを安心して通わせることができるか」の質問に、「安心できる」が62.3%、「大体安心できる」が35.8%の結果であった。

【今後の改善方策】

- 全教職員で生徒指導を推進していくとともに、10月以降は校内巡回(授業開始10分間の巡視等)も組織的・計画的に取組みながら、生徒が安心して安全に通える学校作りを推進していく。また、生徒会活動の活性化に向けて全教職員の取組だけでなく、保護者の協力も得ながら取組んでいく。
- 生徒が、安心して登校できる安全な信頼される学校づくりに向け、特別支援教育の視点に立った生徒指導や授業改善など、組織的教育力の向上を目的とした教職員研修会を計画的・継続的に行っていく。
- 第1回目の「学校生活改善アンケート」は、生徒提出率が約92%であったのに対し、保護者の回収率は少し低迷した。2月に実施する第2回目は回収率が上がるように、保護者連携等を更に深めていく。

4 開かれた学校づくりを進め、家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得て、生徒の可能性を伸ばすための教育活動を共に行う。

<p>家庭、地域、関係機関に向けて学校情報を発信する。</p>	<p>(1) リアルタイムの更新に努め、学校情報を的確に発信し、家庭、地域、関係機関からの理解を得る。 (2) 複数のホームページ担当者の育成に努める。 (3) 簡潔明瞭で容易に理解できるホームページを作成する。</p>	<p>B</p>	<p>○行事等学校情報について、ホームページでリアルタイムに発信し、9月までに29回更新を行った。 ○ホームページについて、複数担当制をおき、機能化に努めた。 ●学校の情報発信の手段として教職員間で認識していく必要がある。</p>	<p>教頭 教務部 (広報)</p>
<p>家庭、地域、関係機関との連携を深め、生徒の自立心を育成する。</p>	<p>(1) 家庭、地域、関係機関との連携を積極的に行う。 (2) 生徒が考えた連携の内容を実現する。 (3) 学校行事の改善や見直しを組織的に行い、生徒が主体となった学校行事を確立する</p>	<p>B</p>	<p>○生徒・保護者への伝達がしっかり伝わるように、校内でその方法についての協議を行い、実行した。 ○生徒が主体的に動くように、生徒会係が中心となって取組んだ。</p>	<p>全分掌</p>

【評価結果の分析】

- 今年度は、これまで、様々な行事等、学校状況についてホームページで情報発信を行ってきている。個人の力量によるところも大きいですが、複数担当制でタイムリーな情報発信を行い、改善を図っている。
- 学校行事の改善が行われており、既存のものをそのまま継続するのではなく、改善してやっていこうという意識が高まっている。生徒会の活動も生徒会係が中心となり、生徒をよく指導して行っている。

【今後の改善方策】

- ホームページについては、複数担当制を機能化させることにより、情報発信の継続性を持たせる。また、ホームページについては、本校の教育活動を適切に伝えるための情報提供・情報発信の手段として、教職員間で認識し、活用する体制をつくる。
- 教師の支援のもと、生徒が自主的に生徒会活動を企画立案し、実行して達成感を得るような取組を考えていく。

	評価	評価基準
自己評価	A	計画はとても順調に進んでいる。
	B	計画は概ね順調に進んでいる。
	C	計画はあまり順調に進んでいない。
	D	計画はまったく順調に進んでいない。